能登

半島に刻む
戦後70年の記憶

□16□

能登で民俗学調査40年

庶民の胸中 歴史に

「民俗学では、名もなき庶民の日常歴史を調べてきた。その学問は戦後、悲しい思いをした母親たちが野菜を切りながらできる、二度と戦争を起こさせない願いを持った家庭の学問として再出発した」

民俗学に詳しい、珠洲市飯田町の真宗大谷派西勝寺住職の西山郷史さん（六八）の戦後の決意だ。自らが体験したり、戦争を記録したりするために、高校教師時代から四十年近く取り組んでいる聞き取り調査で浮かび上がった戦後を語る。

足がやや不自由な男性から聞いた話は、戦争中の「うそ」を突く。戦中、海軍の船に乗っていた男性はこう語ったという。「潜水艦の魚雷で船が沈没して負傷した入院先に、航空母艦赤城の乗組員が入院してきた。ラジオでは、赤城を旗艦とする艦隊が戦果を挙げたとの大本営発表が流されていた。赤城は沈没したのに」

西山さんは、通信兵として自転車を走らせていて空爆で破片が体に刺さり、体中が傷ついた男性と入浴した経験もした。

「戦中、戦後、人それぞれにさまざまな出来事があっただろうが、父や母が子どもに対し、悲しむようなことは言わないし、言えない。だが、一方に家族には話せないが、胸に秘めたことをだれかに伝えなければとの思いもある」と語る。

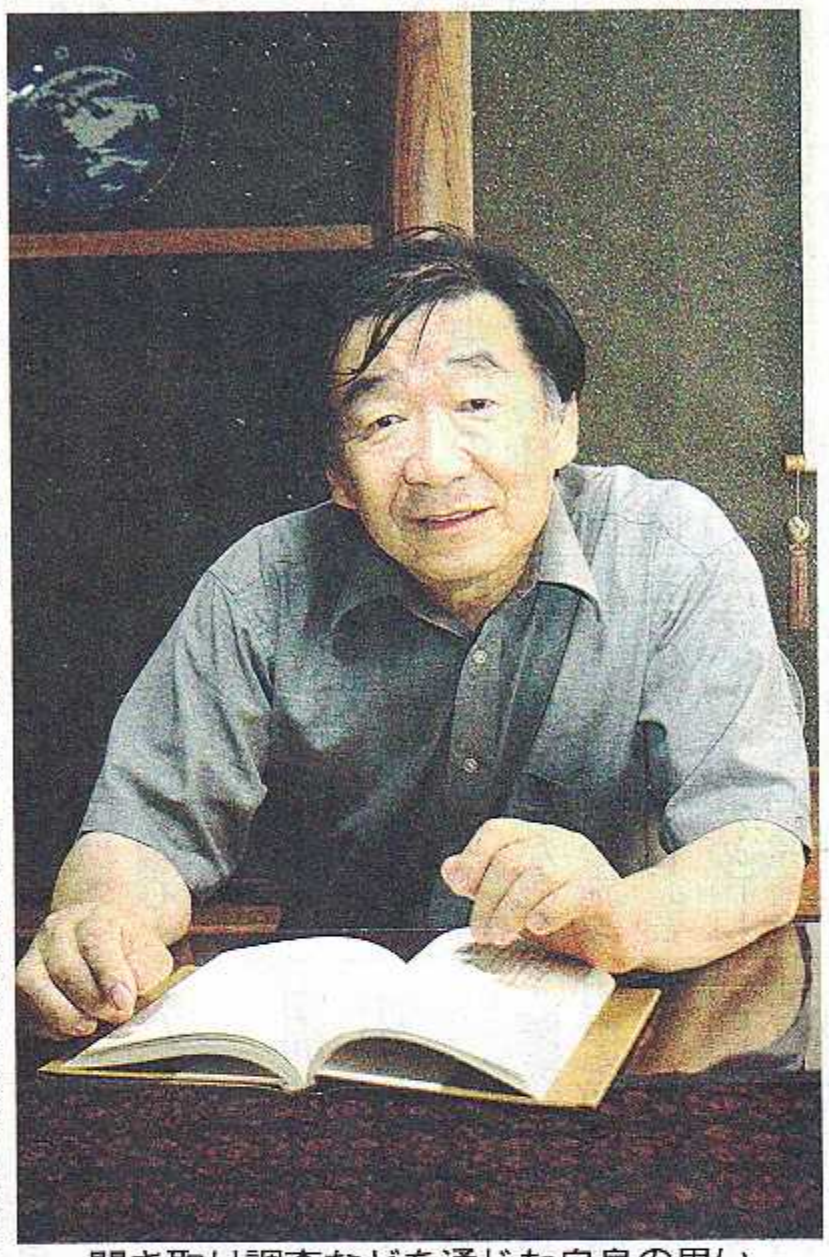
そのような思いがさりげなく語られることに度々出合った調査で得た証言は、これまでの著作などで紹介してきた。「私のところでこんなことがありましたというはがき一枚から始まる」という民俗学は、「誰もが参加できる足元に根差している」と西山さん。だからこそ足元にある戦後の証言は普遍的だ。

こんなこともあった。文化功労者の哲学者上山春平さんを珠洲市内に案内し、あえのことや黒峰城跡を見に行った時、上山さんが問わず語りに「特攻隊員だった」と話しだした。

西山さんは「共に死を覚悟し逝った友と、生き残って二度と戦争は起こさないとの思いが『壬申（じんしん）の乱』など世の大きな変化を扱った一連の著書に命を与えていると感じた」と、体験の重さを実感した。

つらい思いをしながら戦中、戦後を生き抜いた「深い優しさを持った人がたくさんいた」という能登の調査。戦地に赴いた人たちは、もう数少なくなった。西山さんは言う。「その優しさに出合い、繰り返し、繰り返し伝えていくことが重要だ」

＝おわり



聞き取り調査などを通じた自身の思いを語る西山郷史さん＝珠洲市飯田町で

後記

西山さんは、記者の高校時代の恩師。取材中には思い出話に花が咲くことも。何度も自宅の西勝寺にお邪魔して家族にもご迷惑を掛けてしまった。温厚で優しい方だが、戦時中に話が及ぶと厳しい表情を見せた。戦後七十年。戦争体験者が数少なくなっている。「繰り返し、繰り返し伝えていかなければ」の言葉が胸に響いた。

（近江士郎）

能登名物
おたべまき
御菓子司 たにぐち
羽咋郡宝達志水町荻市へ9の1
0120-292112

◇昼＝牧園流歌謡舞踊、初心者のハーモニカ、古文書を読み解く
◇夕＝しの笛
◇夜＝しの笛、HIPHOP
【女性のための特別講座受け付け中】
◇究極の癒やし「ヘッドマッサージセラピスト・3回コース」＝第1（土）後1・30～3（10月3日から）、受講料4860円（税込み）
【新会員募集中】
◇たのしいコーラス＝第1・3（月）後1・30～3
◇フラスタジオ恵　石井恵子教室＝第1・15～11・30
◇社交ダンス＝後7～8・
◇フラメンコ＝3（水）後
◇草月流いけ＝2～3・30
きょうの催し
七尾中日文化センター
0767（53）7511